

港区立赤坂中学校
令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	各学年、知識・技能を問う問題は正答率が高かったが、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が低かった。しかし、学年が上がるにつれて正答率が上がっているため、日常的に文章を書く必要があると考える。 また、作文や小論文を書く問題では、語彙が乏しく接続語が多くなっていた。日頃から新出語彙に触れ、用例を学ぶ必要がある。
社会	全学年を通して、定期テスト等の様子から、基本的な学習内容は以前よりも定着してきているように見受けられる。一方で、思考力・判断力・表現力を問う課題については取り組みが消極的で、学習の深まりがあまり見られない。学習内容を生徒の身近な事柄と関連付けて、学習活動の様々な場面で新しく得た知識や技能を活用させる必要がある。
数学	思考・判断・表現を問う問題の正答率は高くなかった。例年、知識・技能の正答率が高く、思考・判断・表現の正答率が低いという生徒が多かったが、今年度はこのような生徒の割合が低い。柔軟に思考・判断・表現の力がある生徒が多く存在しているようにとることもできるが、思考・判断・表現に合わせて知識・技能の能力も低下していると考え、数学に興味関心がない生徒が増えていると考えることができる。
理科	各学年とも、知識・技能を問う問題の正答率は比較的高いが、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率はあまり高くなかった。また、記述問題に関しては、「○○だから、○○である」といったような論理的な説明をすることができないということも課題として残った。
外国語	各学年、英語を話すことを得意とする生徒が多く、スピーチ、スキットなどのパフォーマンステストでは、自分の言いたいことを英語にし、表現することができる。 一方で、英語を読むことに苦手意識をもつ生徒が多い。英文を読むことに慣れておらず、スピードが遅く、単語量が少なく、英文の概要をつかむことができないと考える。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活に必要な語彙力 ・ 筋道立てて考える思考力・ ・ 人との関わりの中で伝え合う判断力や表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的文章を書くための構成力育成に力を入れていく。 ・ 話したい、聞きたいと思う学習の場面を設定することが課題である。話し手・聞き手の交流の場面を実現し、話し合い活動を通して話すこと聞くことの力を育成する。 ・ 思考を広げるために、ICT機器を活用する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象に対する関心 ・ 諸資料を通して課題について多面的・多角的に考察する力 ・ 考察したことを、様々な場面で活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象への関心をもつために、時事問題を積極的に取り上げる。 ・ 主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、地図帳や歴史資料集を使用しながら、自ら主体的に調べる姿勢を育てる。 ・ ICT機器を使用して、生きた新しい情報を常に活用できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的の知識・技能の定着 ・ 資料から情報を読み取り、活用していく思考力・判断力 ・ 読み取った情報から自分の考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で取り組み、解説まで自動でできるタブレットドリルの活用や、動画授業も活用する。 ・ 小單元の中で考察したことをまとめる活動や、レポートを作成し発表しあう活動を取り入れる。生徒同士で解法を教えあう活動を取り入れる。 ・ 数学的な視点から考察したことをまとめ、自分以外の意見と比較する授業を実施する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的、基本的な知識の定着 ・ 習得した知識を活用する力 ・ 自分の考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的、基本的な知識、技能の習得のために、タブレットドリルなど、スモールステップで取り組めるようにしていく。 ・ 単元ごとに問題演習を授業内で取り入れるのと同時に、身近な事象に基づいて考えさせるようにする。 ・ 実験結果などを考察する際に、どのように論理を展開すればよいのか補足を盛り込んだプリントを作成する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び、音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表をするために必要な技能を身につけるようにする。 ・ ワークシートやタブレットを活用して、曲に対する思いや意図を伝え合う機会を多く設け、主体的・協働的に表現する学習活動ができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を通して、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」を身につけ、心豊かな生活を創造していく姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各課題の前後に、アイデアスケッチと計画、コメントや振り返りを設け、作品についてより詳しく考察させる。また、タブレット等を用い、多様な芸術作品や文化的な建築物等を鑑賞する機会を増やすことで、美術文化や生活とのかかわり方について考え、自身に生かそうとする姿勢を育む。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動することが楽しい・面白いと思える授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 ・ 互いに課題を発見・解決をし他者に伝える力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動量を増やすとともに、タブレットや学習カードを活用し、生徒同士の学び合いの時間を充実させる。 ・ 集団的活動において道筋を立てて練習を考え、改善の方法を話し合うなどコミュニケーション能力を育成し、互いに楽しさや喜びを味わわせる。

技術 家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	生活や技術に関する実践的・体験的な活動をとおして、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・(技術)実践的な活動を中心に、ICT を適切に活用した問題解決型の授業を実施する。 ・(家庭科)授業及び実習をとおして、自ら学び知識・技能を習得する楽しさを身につけ、実生活に生かせるようにする。また、SDGs の考えを実践していく。

外国語 (英語・国際)	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識の定着。 ・文章を読んで、概要を把握したり、必要な情報を読み取ったりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの学習により、基礎・基本の定着を徹底し、学力の底上げを図る。 ・授業の帯活動に2年生は「読みトレ50」、3年生は「読みトレ100」や自作プリントの読み教材などを使って、読むことの活動を充実させる。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	自己を見つめ、物事を広い視野から多面的多角的に考え、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、小集団から段階的に自分の考えを整理・表現し、互いの意見を交換しあう活動を通して、考えを深める。 ・教科学習との双方向性を持ち、幅広い学習・より多面的な学習で人間関係力や表現力を伸ばす。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	集団や社会の一員として、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や宿泊行事等を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・人間としての生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養うことを目的とし、各学年・クラス等で学級活動・生徒会活動・学校行事に関する取り組みを実施する。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	自ら課題を設定し、学び・考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室や修学旅行等の宿泊行事、職場訪問や職業の話を聞く会等のキャリア教育を「発達段階に応じた内容」として設定し、調べ学習・体験活動・レポートの作成や発表会活動等を行う。 ・指導体制として、学年の教員全員で一人一人の課題に対する支援をしていく。